

《開催概要》

1. 日時 2024年6月17日(月) 13:30~17:30
2. 場所 JPタワー名古屋 37F D.forum1・2, (オンライン〔Zoom〕との併用)
3. 出席者(敬称略)
《革新事業創造戦略会議 委員》
粟生 万琴 株式会社LEO 代表取締役 CEO
石川 良文 南山大学総合政策学部 教授
内田 俊宏 中京大学経済学部 客員教授
川出 仁史 愛知県経済産業局 革新事業創造部長
鬼頭 雅弘 名古屋大学学術研究・産学連携推進本部 教授
佐橋 宏隆 STATION Ai 株式会社 代表取締役 CEO
山下 哲央 一般社団法人中部経済連合会 イノベーション推進部長
※ 佐藤委員は2024年6月13日(木)に各議題について審議

《議事次第》

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 題
 - (1) 優れた提案の選定について
 - (2) 愛知県が仕掛けるイノベーション・エコシステムの形成
 - (3) 革新事業創造戦略のフォローアップについて
4. 閉 会

(土井課長)

定刻となりましたので、只今から2024年度第1回の革新事業創造戦略会議をリアルとオンラインのハイブリッドで開催させていただきます。

最初に、本日の会議の次第をご紹介します。議題は3つございます。

議題1は、革新事業創造提案プラットフォーム A-IDEA に提案されたプロジェクトのうち、民間主導で行う優れた提案の選定について委員の皆様をお願いしたいと思います。

議題2・3につきましては、今年10月にSTATION Aiがオープンとなり、この革新事業創造戦略の取組も3年目を迎えるということで、改めて、県のイノベーション・エコシステムの取組内容や戦略のフォローアップについてご意見をいただきたく思います。

本日の会議は、事業者の選定がございませう。知的財産保護の観点から、非公開となっております。委員の皆様にもご協力をお願いいたします。

それでは、早速ですが議事に移りたいと思います。開催要領の規定により、この会議は座

長であります中京大学の内田先生に進行をお願いしたいと思います。内田座長、どうぞよろしくをお願いいたします。

【座長挨拶】

(内田座長)

只今ご紹介いただきました中京大学の内田です。

革新事業創造戦略は、10月末にグランドオープンを迎える STATION Ai と両輪で進めていくものであり、本会議では愛知県の成長にも貢献するようなプロジェクトを選出します。

また、最近の人口動態を見ていますと、東京、大阪、福岡辺りに少し劣勢となるような状況ですので、若い人やスタートアップ企業にチャンスがあるという地域を目指していくためにも、今回の事業も含めて、愛知県の魅力を高めていくことに寄与していただきたいと思っています。

それでは議題1につきまして、事務局から審査の説明をお願いします。

【議題(1)は提案者のビジネスアイデア等の知的財産権保護等の観点から議事録非公開】

(内田座長)

続きまして、議題2「愛知県が仕掛けるイノベーション・エコシステムの形成」と議題3「革新事業創造戦略のフォローアップ」について、事務局から手短かに説明のうえ、皆様から意見をお願いしたいと思います。

<議題(2):事務局説明>

資料02に基づき説明

<議題(3):事務局説明>

資料03に基づき説明

【各委員質疑】

(内田座長)

まず優れた提案の選定に向けた採点方法については、今日出た意見を踏まえて、検討いただければと思います。

また、地域に根差した課題を解決するプロジェクトの創出ができていないという点については、スマートシティモデル事業の方で色々な市町村が提案してきていますので、仕分けをうまくやっていただければと思います。

(粟生委員)

2年連続この補助金スキームに応募することは可能なのでしょうか。背景としては、なかなか一年だけで事業化して実績出すのは難しいケースもあるので、一度採択された企業も

再び応募できるような仕掛けがあれば、継続的な支援になるのではないかと思います。

(内田座長)

税金を投入するので、何らかの成果はある程度必要かと思いますが、事務局いかがですか。

(事務局)

時間の都合上、本日は委員の皆様からご意見を承って、後日フィードバックさせていただきつつ、改めて様々なご意見をいただければと思います。

(内田座長)

優れた提案の選定の際に、今回の佐藤委員のような事前審査は難しいと思います。少なくともオンラインで参加できると良いと思います。

(佐橋委員)

昨年も思ったのですが、やはりプレゼンテーションを改善すべきだと思います。

より本質的なところが伝わるように、プレゼンで伝えるべきポイントが明確になるよう事前に指摘すべきだと思います。採点の話とセットで、プレゼン方法について改善できないか、また議論できればと思います。

(内田座長)

その辺り、事務局で十分検討いただければと思います。

それでは、これで本日の議題については終了いたしましたので、事務局に進行をお返しします。

(土井課長)

長時間に渡り、ありがとうございました。

補助金の審査に関しては、今ご指摘をいただきましたが、尖った提案をいかに取り上げていくかという一方で、やはりバランスも必要ということで、採点基準の見直しについてはシミュレーションも行いながら、方向性をお示しできたらと思います。

また、この革新事業創造戦略のそもそもの狙いについてですが、官民連携で地域課題の解決を図るプロジェクトを作っていくというのが元々のコンセプトでございました。その中で、まず補助金に関しては、民間の事業にただ補助金を出すだけで留まっているのではないかという点がございます。先ほども粟生委員から、継続的な支援はできないのですかとの御意見がありました。行政の支援は、どうしても単年度のものが原則になっていますし、一度採択した事業について、二回目は採択しないというのが基本的なスタンスです。

ただ、関与の仕方は様々あると思っており、県の補助金は対象外だったけれど、少し事業内容を変えて、国の補助金の利用を促すなどの方法はあると思います。

県や国の補助金だけではなく、逆に STATION Ai の入居企業を支援プログラムに乗せていくような仕組みも考えられると思います。

さらに、行政との連携に関しても、愛知県が支援するという枠組みにとらわれず、市町村と連携していくことも考えられると思います。今回の審査においても、営業先を探しているのではないかという御指摘がありましたが、それは言葉を変えると、実証フィールドを探し

ているということかと思えます。そういった部分で、やはり市町村との連携も考えていかなければいけないという問題意識を持っております。その点について事務局でも整理を行い、委員の皆様にも御意見をいただきながら、フォローアップの方向性を示していければと考えております。

長時間にわたり、色々ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、これを持ちまして、本日の革新事業創造戦略会議は終了します。

第2回の戦略会議は10月辺りに予定しておりますので、また日程調整をさせていただきます。

補助金の採択状況についてもメールで御連絡を差し上げたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。